

# 放課後等デイサービス自己評価表 (30年どろんこジュニア)

	チェック項目	はい	どちらともいえない		改善目標、工夫している点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
			はい	いいえ		
業務改善	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			低学年・高学年で譲り合いながら使えている。公園などの資源も活用できてる。	遊具に関しては活動内容によって足し算・引き算をして、スペースの活用に努めていく。
	② 職員の配置数は適切であるか	○				
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○			
	④ 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか		○		企画の振り返りは改善の余地が必要。	PCDAサイクルを実現できるシステムを作る。
	⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			昨年は予定していたが実現できないこともあった。	年度初めに実施内容を月ごとに組み込んでいく。
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか		○			
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		毎年、東区(妻の子さん)センターの職員の来所あるが、自分たちの療育にどのような改善の余地があるか、詳しく知りたい。	別の評価機関の資源を活用していく。
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			研修委員会もできたので、様々なプログラムが期待できる。	今後も全体研修・研究会・委員会での研修を療育に生かしていく。
適切な支援の提供	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			日々のコミュニケーションの中で子ども達の状況理解が深まっている。	評価の質を高めるために、検査用紙などとも照らし合わせながらアセスメントの質を上げていく。
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		様式はあるが、評価を取るスタッフの力量も関わってくる。	標準化したツールへの共通認識を高めていく。
	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○				
	⑫ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			毎年、新たなことにチャレンジしようという声を掛け合っている。	昨年のデータも用いて、平日活動から変化を加えていっている。
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			毎回、目標を定めて取り組んでいる。	昨年のデータも用いて、平日活動から変化を加えていっている。
	⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			学校行事等で子ども達の心身の状態が落ち着かない時の対応がまだ十分とは言えない。	事前に予測して、活動内容を臨機応変に適應していく。
	⑮ 支援開始前には、職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○				
	⑯ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		○		何気ない会話に出てくるが、全スタッフで共有はできていない。	連絡ツールの活用を進めていく。
	⑰ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			スタッフの意識の中に、情報収集と記録が定着してきた。	これからも情報の共有が子ども達の支援にプラスに生かされていくというつながりを示していく。
	⑱ 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			事前にモニタリング時期を記録している。	
	⑲ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか		○			
関係機関や保護者との連携	⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			管理者・主任クラスのスタッフで参加し、スタッフに報告している。	
	㉑ 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			連絡を密に取り合い、調整ミスはほぼ事前に発見、対応できている。	
	㉒ 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○			
	㉓ 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			児童の管理者からの引継ぎと作業療法士の評価を参考にしている。	作業療法士には時折、現場を見てもらえる環境を整えていきたい。
	㉔ 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○			引継ぎの文章を作成して引継ぎをしている。	
	㉕ 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し助言や研修を受けているか		○		おがるの研修プログラムを活用できた。	
	㉖ 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			公園で地域の子たちが入りたそうなきは一緒に遊んでいる。	計画的な交流の場を検討中である。
	㉗ (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか		○		児発連に登録し、総会等に毎回参加している。	
	㉘ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			事業所での茶話会が2回出来た。	
	㉙ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		○		専門性のあるスタッフが限られており、対応人数がまだ少ないところが実情である。	専門性のあるスタッフから情報を参考に、知識の幅を広げていく。

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	③⑩ 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約時に説明している。	
	③⑪ 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			茶話会を含めて、送迎時にも対応している。難しいケースは持ち帰って管理者が対応している。	
	③⑫ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			合同企画や、茶話会を開けたことによって、タテと横の関係が深まってきた。	
	③⑬ 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○				
	③⑭ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			会報は決まった月に定期発送できた。	
	③⑮ 個人情報に十分注意しているか	○			写真の掲載などは家庭から承諾書を得て対応できている。	
	③⑯ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通情報伝達のための配慮をしているか	○			視覚情報を交えた対応や、来所が難しければ自宅に伺って面談をしている。	
非常時等の対応	③⑰ 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか		○		地域の運動会や新年会に声をかけてもらってまずスタッフが参加している。	
	③⑱ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		○		作成しているが周知徹底が不十分である。	年度初めに文章にて家庭に配布・周知する。
	③⑲ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○				
	④⑰ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			虐待防止研修に参加したスタッフから研修の場を設けている。子どもの人権についても札幌市の出前講座を活用した。	
	④⑱ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか		○			
	④⑲ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○			
	④⑳ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		○		ヒヤリハット委員会を設置して、小さな芽から摘んでいけるよう対応している。	